

環境影響評価書

—都市高速鉄道第7号線赤羽岩淵～浦和大門間(都内部分)建設事業—

(本編・資料編)

平成6年7月

埼玉高速鉄道株式会社

1. 総 括

1.1 事業者の名称及び所在地

名 称：埼玉高速鉄道株式会社 代表取締役会長 土屋義彦

所在地：埼玉県浦和市仲町二丁目4番1号

1.2 対象事業の名称

都市高速鉄道第7号線赤羽岩淵～浦和大門間（都内部分）建設事業
（鉄道の新設）

1.3 対象事業の内容の概略

本事業は、都市高速鉄道第7号線（目黒～赤羽岩淵間は、帝都高速度交通営団が免許取得）の赤羽岩淵より埼玉県の浦和大門まで（延長約14.6km）の延伸事業のうち、埼玉県境から現在供用されている赤羽岩淵駅に接続する延長約0.97kmの都市高速鉄道を新設するものである。

事業計画の概要は、表1-3-1に示すとおりである。

表1-3-1 対象事業の内容の概略

項 目	概 要
区 間	北区岩淵町～埼玉県境 （全区間は北区岩淵町～浦和市大門）
延 長	延長約0.97km （事業計画区間延長約14.6km）
駅	なし
単・複線の別	複 線
軌 間	1,067mm
軌 条	60kg/m
動 力	電力（直流1,500ボルト）
完 成 予 定	平成12年

1.4 環境に及ぼす影響の評価の結論

計画路線周辺の現況及び事業計画の内容等を考慮して予測・評価項目を選定し、現況調査、予測及び評価を行った。

環境影響評価の結論の概要は、表1-4-1に示すとおりである。

表1-4-1 環境影響評価の結論の概要

予測・評価項目	結論の概要
1. 振 動	工事完了後の列車走行に伴う振動は、敷地境界付近で最大42dB、と予測される。これは、すでに開業している営団南北線と深さ、軌道構造とも同じである。これらの線では列車走行に伴う振動による問題が生じていないことから、予測値は問題を生じないレベルであると考ええる。
2. 地盤沈下及び地形・地質	本事業は、トンネル築造に際し、地盤変状及び地下水位への影響の少ない密閉式工法（泥水加圧式工法等）で施工するため、周辺の建築物等に影響を与えるような地盤沈下及び地下水位の低下は生じないものと考ええる。 さらに工事の完了後においても、地下構造物の周辺を地下水が回り込んで流れるので、地下水位の変化はわずかである。

1.5 評価書案の修正の概略

評価書案の修正の概略は、表1-5-1に示すとおりである。

表1-5-1 修正の概略

修正箇所	修正事項	修正内容
1. 総括	完成予定	完成予定の記述を、年度から年に変更した。
2. 対象事業の目的	建設工程	建設工程表において、建設年次の記述を年度に修正した。